

令和 6 年度第 6 回 多摩市男女平等参画推進審議会 要点録

開催日時：令和 6 年 1 2 月 1 9 日（木）15：00～17：00

場 所：TAMA 女性センター 活動交流室

出席委員：中島康予委員、木本喜美子委員、神子島健委員、鈴木景子委員、島田直広委員、高井雅秀委員（会長・副会長以下 50 音順）

欠席委員：木村有希委員、本間まり子委員

事務局：古谷部長、西村課長、武井係長、米山主任

傍聴者：3 名

（発言者凡例：◎会長、○委員、◇事務局）

1 開会

2 議題

（１）〔報告〕令和 6 年度第 5 回多摩市男女平等参画推進審議会要点録の確認について
◇修正点等ある場合は、1 2 月 2 7 日（金）までにご連絡いただきたい。

（２）〔協議〕「多摩市女と男がともに生きる行動計画」中間改定に向けた「多摩市民意識及び実態調査」について

（当日資料 2 「送付鑑文」について事務局から説明）

○5 行目「配偶者暴力（DV）も深刻化しました。」という表現があるが、少々限定的な表現と思うが、配偶者間の暴力は増加したということか。

◇相談件数が増加していることは確かである。その内容が深刻化しているのかどうかについては、ケースバイケースであり、本表現についてどこまで書き込むかというところは、もう 1 回ブラッシュアップしていきたい。この辺りはご一任をいただければと思う。

（当日資料 1 市民意識実態調査票（案）のうち、「男女平等、男女共同参画社会について」、事務局から説明）

○問 5 「クオータ制」を追加したとのことだが、選択肢の順番として、「ジェンダー」と「LGBTQ+」の間に「クオータ制」が入ることに違和感がある。選択肢の並びに配慮したほうが良いと思う。

- カテゴリ分けが少々難しい。「クオータ制」をどこに持ってくるか。
- 重要性を考えても、「クオータ制」を知らないと、男女共同参画を理解しないように思われる。
- 括りで言うと、「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」が上の方に来て、「クオータ制」が最後ではないか。
- 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性や生殖に関する健康と権利）」の前に入るとよいのではないか。
- 私も同じことを思った。「クオータ制」は最後か、最後から2番目かと。
- 本人の意識とかそういう問題ではなく制度の話なので、その辺りが妥当か。
- 「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」はジェンダーの次ぐらいにでもいいような。
- 「アウティング」も上の方にありすぎるのではないか。
- ◇「アウティング」と「SOGI」を逆にしてはどうか。
- それが良い。
- 本来ならば「SOGI」の方が上だと思う。
- 確かに「LGBTQ+」、「アウティング」は、用語としてはセットのようなものので、並んでいるのはいいと思うが。一般のニュースを見ている人にとっては、クオータ制のほうが耳になじんでいると思う。
- おそらくこういう並びにしたのはクオータ制の説明のところにもあるが、男女間の格差是正というところでジェンダーと紐づけられる側面があるからではないか。
- クオータ制以外のものは言葉の意味だが、クオータ制はポジティブアクションの一つなので設問の中にクオータ制が入ってくるのに少し違和感がある。
- 問5の設問の「あなたは、つぎの言葉や意味を知っていますか。」という設問だが、もう少し踏み込んで、「男女平等参画における言葉について知っていますか」という表現を加えると良い。
- ◇計画の中で出てくる用語としては、「ジェンダー」、「アンコンシャス・バイアス」も重要な言葉となる。「LGBT」と「SOGI」についても、多摩市の多様な性の取り組みとして、市民の方には知って頂きたい。「アウティング」については、世論調査においても認知度は低かったが、大事な要素だと思うので、その辺りをセットとしたい。「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」は、今は「セクシャル・リプロダクティブ～」という言い方もあると聞いているが、やはり女性の健康支援といった内容は、市

民の方にとっても比較的興味がある分野でもあるので、選択肢に加えている。計画の中で登場頻度の多い「ジェンダー」や「アンコンシャス・バイアス」を選択肢の上位に持っていくつつ、「セクシャル・マイノリティ」に関連する用語については、ある程度ひとかたまりとした上で、「クオータ制」については、言葉の定義というよりは制度の説明であるので、1番最後に置くようにしたい。

○「アウティング」を選択肢の上におく必要があるのか。

○「アウティング」を理由として亡くなっている方もいらっしゃるのでは、ここはセットにして聞いた方がいいのでは。実際に「アウティング」という言葉を知っていることにより、「アウティング」がどれだけ人を傷つけるのかということをアンケートに答えながら知っていただけるという意味では、この順番でいいのかなと思う。

○多摩市は「アウティング」の禁止を条例に盛り込んでいるのか。

◇言葉としては盛り込んではいないが、差別の禁止を規定している中にある意味含んでいると考えている。

○用語としては残していいのではと思う。

○「アンコンシャス・バイアス」と「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」だけ漢字で用語の言い換えが追記されているが、何か意味があるのか。

◇この2つは併記されることが多いことと、日本語に読み替えができる用語については追記したもの。

○「アウティング」については日本語の説明を加えないのか。

○まず「アウティング」に相当する日本語がない状況があり、「暴露」というと広すぎてしまうと思う。「アウティング」は英語というよりは、カタカナ言葉であり和製英語なのではないか。

○問2の(5)「お年寄りの身の回りのお世話（介護など）」ところだが、ケアワークには様々なケアワークがあり、選択肢(3)で「家事・育児・介護」についての選択肢も入っているが、(5)であえて「お年寄りの身の回りのお世話」と限定するのは、病気の家族の介護という場合もあるし、高齢者が多い多摩市ならではの加えられた選択肢かとも思うが、少々気になった。

○私も「お年寄りの身の回りのお世話（介護など）」に限定しない方がいいと思った。家事・育児・介護・看護、要するにケアワーク全般のことについて聞いた方が良いのでは。

○お年寄りに限定せず、「ケアワーク」としては。

○お年寄りに限らず、病気の介護も確かに存在する。

○「お年寄りの身の回りのお世話」について、市民としての感想としては、介護まで必要ではないが、1人で家にいると心配だから誰か一緒に見ていてあげて、とかも含まれるのかと思う。そのような状態まで含んでいるのであれば、「お年寄りの見守りのお世話」とあえて限定句としてもいいのかなと思う。このお年寄りの身の回りのお世話とは、必ずしも介護や看護に限らない、という意図なのかと思い読んでいたがどうなのか。

◇今回調査から削除した設問に「お年寄りの身の回りのお世話（介護など）は、男女どちらが担うのが良いと思いますか。」という設問があったのだが、高齢者の介護は女性がやるものだという意識がどの程度あるのかを問いたい狙いがあった。前回の審議会では、この問い方が難しいのではないかという議論だったかと思う。単純に男性が、女性が、という選択肢だけではなく、介護サービスを使うこともあるのではないかと、というご意見があり、この設問1を削除した経過があるので、介護に関する認識を、ただ単に家族が介護するだけではなく、介護サービスを利用する意識がどれくらいあるのかを、新たに問いたいという意図があった。では介護、育児、家事が女性にのみ偏るのか、という意識については、選択肢(3)「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである」で取れると考えており、選択肢(4)「男性も家事・育児・介護に積極的に参加した方がよい」について、これは前回調査では9割近く賛成の回答であったが、そう言いながら、「女性が仕事を持つのはよいが、家事、育児、介護は女性がきちんとすべきである」と2割弱の男性については「賛成」、「どちらかといえば賛成」と回答している。比して女性の賛成票（「賛成」、「どちらかといえば賛成」）は計4%程度と少なかった。それらの結果を見た時に、男性も介護や育児に参加すべきだという意識は皆持っているが、現実としては女性が行うことに賛成という意識が、経年変化としては減少傾向にあるものの、やはり一定数あり、それらの回答を見ながら、経年での市民意識の変容を捉えていきたいと思っているので、そのケアの担い手として(3)「女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである」で十分に取り切れるかどうかと考えると、色々な側面があるとは思いますが、大きな意識はこちらで捉えつつ、介護の担い手は家族ではなく、第三者でもいいのではないかと、という寛容性についての意識を捉えるために、(5)で問うことができればと思った。なので、必ずしも「お年寄りの介護」に限定しなければいけないのかという議論はあるが、保育サービスというのは比較的現状では皆さん利用しており、それに対してダメだという意見は一般論としてはあまりないが、介護については家族がやる、という意識もまだまだ残っているのではないかと、という推論もあり、このような設問の仕方をしたところである。

○よいと思う。

○文章として、「お年寄りの身の回りのお世話(介護など)は、身内だけでなく外部サービス(老人ホーム、介護ヘルパー等)も積極的に活用すべきだ」、という文面のほうが受け取りやすい。

○あえて「身内が行わず」と断定的に書く方が、市民意識をくみ取れるという意図もあるのでは。

○逆に、なるべく外部サービスを使わず身内が行った方がいいという(2)「女性は仕事をもつのはよいが、家事・育児・介護は女性がきちんとすべきである」と同じく、なるべくならば身内がやった方がいいという質問にするほうが、逆に介護に対する市民意識をくみ取れるのではないか。

○外部サービスを利用せず、なるべく身内で行う方がよい、と新しい選択肢と反対の言葉を使った方がかえっていいかもしれない。

○(6)「結婚は個人の自由だから、人は結婚してもしなくてもどちらでもよい」の「人は」は要るのか。

◇「人は」入ってなくても意味は十分通じる。削除の方向で修正したい。

(「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について」、事務局から説明)

○問9の女性リーダーの項目を入れるのはとてもよいと思うが、「女性リーダー」と言われた時に、言葉の意味としてイメージしにくいというか、よく分からない方もいるのではないか。なので、ワーク・ライフ・バランスの表題すぐ下に用語解説を加えたように、「女性リーダー」のイメージについて、説明を加えるとよいのではないか。

◇そのように修正したい。

○問10にあった選択肢(7)「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること」を削除したとのことだが、出産後に育児休暇を取るのは構わないけど、復帰したら職場には居場所がないというのでは取得に抵抗がある方も多いのではないか。「再雇用制度」については、現在はない制度であるが、出産後も職場に復帰しやすいような制度が必要というのは、現在も求められているニーズである。削除するのではなく、表現を変更してそのような聞き方にしたらどうか。

○その通りで、出産後に職場に戻りにくい雰囲気であったり、環境であったり、戻っても前ほど同じように働けなくて周りの人に迷惑をかける、又はそのような雰囲気を感じるなど。男性の場合は、育休を取ると職場で白い目で見られるという話も聞く。

○育休を取ってもキャリアが途切れない、そういう仕組みにしてほしいというところは聞くべきかと。

◇事務局でもこの文言、全く同じ意見が出て議論させていただいたが、選択肢（９）

「介護休業・育児休業が取得しやすい職場環境を整えること」との差がかなり分かりにくくなってしまい、特にこれは回答を３つまでに絞る設問なので、その場合「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実させること」と「介護休業・育児休業が取得しやすい職場環境を整えること」を２つ選ぶことの統計上の問題を考えて削除させていただいたので、もし戻すのであれば、前者を復活させるというよりは、校舎の内容をもう少し充実させてここに含めるのはどうか。

○「介護休業・育児休業が取得しやすく、職場復帰しやすい職場環境を整えること」はどうか。

○問９で私も少し違和感を持ったのは、選択肢（６）「管理職になると広域異動が増える」で急に「管理職」という言葉が出てくる。それまでは「リーダー」という記載であった。揃えたとしたら、「リーダー」とした方がいいのか。

○「リーダー」と「管理職」を同じ意味で使っているのだろうか。

○管理職ではないリーダーもいるだろう。チームリーダーのような。

○おそらくこの役職が上に行くにつれて、「管理職」となるのだろう。

○女性は、管理職にあまりなりたがらないという傾向はある。

○女性リーダーの感覚を持っていない人がこれを見た時に、答えにくいというのはあるのかもしれない。地域のリーダー、例えば避難所運営リーダーなどもリーダーである。

◇女性リーダーというのをもう少し具体的な例示化を冒頭に加えて、回答者が回答しやすい流れに修正をさせていただければと思う。

（「あなたの日頃の生活について」事務局から説明）

○問１４（コロナによる生活の影響）の表現についてだが、「新型コロナウイルス感染症拡大以降、現在の生活や行動につぎのような影響がでていますか」と「以降」を加えると、より明確になると思う。例えば選択肢（１）「仕事の負担が増えた」でも（２）「収入の減少などにより、経済的に厳しくなった」でも、仕事の負担がその時は増えたが、今は改善した人は選びようがない。現在まで続いている影響を聞いているという風に割り切ってもらった方が良い。

○選択肢がポジティブなものとネガティブなものが混ざっている気がしており、選択肢（３）「テレワークやフレックスタイム制など、働き方が柔軟になった」と（１０）「家族と会話する時間が増えた」は良いこと、それ以外が悪いこと。あえて混ぜているのか。

◇あえてミックスし、その上でカテゴリー別に分けている状況である。最初は良し悪しで分けていたが、カテゴリーで分けた方が答えやすいかと考え、この順になっている。

（「暴力（DV）などについて」、事務局から説明）

○問 16 の暴力を受けた経験を聞く設問の冒頭にある「現在、配偶者やパートナー、恋人がいる方、または過去にいた方におたずねします。」は、何らかの経緯で加えられたものなのか。わざわざ書いた方が良いのか。そういう人がいない人を想定しているのかもしれないが。

○確かに、この説明文がないと全員パートナーがいるものだ、という想定で聞かれているように読めなくはない。

○あえて文章化することで、嫌悪感を持つ市民もいるのではないか。

○パートナーがいない人は答えなくていいということであれば、説明が必要ではないかと思う。この文章が加筆された経緯はあったのか。

◇以前からこの文言を使用しているので経緯については不明だが、アセクシュアルやアロマンティックの方などは、いきなり「あなたは～」から設問が始まると、大前提としての外れな質問を受けている印象を受ける可能性があるかと思うので、残した方が分かりやすいかと考えた。

（「あなたの仕事・職場について」、事務局から説明）

○問 18 は「現在、お仕事をされていますか」という表現から始まるが、有償の経済活動に従事していない人は、まるで仕事をしていないような印象を持たれるので、改めた方が良いと思う。家事などの無償労働も労働の一つだと思し、無報酬の育児・介護や家事労働を認識・評価するのも SDGS の理念の 1 つでもあると思う。

○家事労働を労働と捉えてないということか。

○有職の方については業種を答えるところにアクセントがあるので、有職の方、無職の方でそれぞれ選択をしてもらうのに、適切な表現に改めた方がよいのではないか。

○「現在のあなたのお立場は何ですか。」として、有職の方については業種を問い、無職の方については、その理由を問うようにしてはどうか。

○有職・無職という分け方自体も、問題ではないか。

○少なくとも、「お仕事をされていますか」というのは、無償労働である子育てなどを見落としている表現である。

- 委員のご意見もわかるが、そうすると「無職」というカテゴリーも設けることが出来なくなり、分析や実態を正確に把握しづらくなるのではないか。
- わざわざ有職と無職の方で分けなくていいのではないか。
- 確かに、選択肢にある「専業主婦・専業主夫」「学生」「リタイア・その他」の人は、有償労働は行っていない。
- その方々は、問 19「あなたの働き方」の区分や問 20「働いている理由」を問う設問にはマッチしていないわけで。無職を選んだ人は、問 19、20 は答えなくていい訳だ。
- 学生はアルバイトなどをしている場合もあり、問 19「あなたの働き方」に回答する人もいると思う。
- 学生については、「無職」のカテゴリーに入るので、実際にアルバイトをしていたとしても、問 19「あなたの働き方」で回答をする必要はない。
- 問 18「業種の選択」で「有職の方」「無職の方」という表現を外して、問 19「あなたの働き方」を自由に選んでもらい、回答の分析時に「無職」者とクロス集計を取り割合を出していくのはどうか。
- いいかもしれない。何もやっていなければ、「無職」と。例えば、専業主婦の方が家事を労働だと思っていたら、問 18「業種の選択」では「その他」を選択肢、「家事労働」と記載するかもしれない。しかし、それは個人の 1 つの認識を問うという意味では有効な手段かもしれないが、前回との整合性の関係としてはどうなのか。
- 前回の整合性も大切だが「お仕事をされていますか」はあまりに失礼である。
- 問 18「業種の選択」の選択肢は、国勢調査などの区分を利用しているのか。
- ◇行政統計上の区分を利用している。有職・無職の区分については、表記方法により制御することもできるし、最終的にクロス集計で、ある程度分析をすることはできている。「お仕事をされていますか」という設問をどのように変更すべきか、事務局としても悩んでいる所である。
- 「あなたの就業状態をお尋ねします。」はいかがか。
- 設問を見ていると、例えば問 20 の「働いている理由」についても、今は働いていないが過去には働いていた人にとっては、少々答えづらい設問であるかと思う。
- 「有職の方」「無職の方」とそれを外したらどうかという議論となると思う。そして「お仕事をされていますか」は「現在の就業状態をお尋ねします」でよいのではないか。

○いい表現と思う。

○専業主婦も労働をしているという認識を持つことで、よいと思う。

○選択肢の「専業主婦・専業主夫」「学生」「リタイア・その他」を無職の方として、いわゆる有職者と区別をしたい場合は、統計処理する際に気を付ければよい。

○そうすると、全ての人に問 19「あなたの働き方」を答えてもらうのか。

○選択肢「専業主婦・専業主夫」「学生」「リタイア・その他」の方は、問 23「性の多様性について」まで回答しなくてよいということ。

○今現在の就業状態を問うことができればいいと思う。紛らわしいので、過去について聞く必要があれば、また別立てで聞いた方がいい。

○学生でアルバイトをしている方は、就業形態を聞くべきか。

○ここでの設問で取りたい統計の意図として、学生のアルバイトが有効かどうかというところだと思う。学生でアルバイトをしている方についても、統計で数字を取りたいというのであれば分けなくていいと思う。

◇前回の議論で、副業されている方や新しい業態（ユーチューバーなど）の方についても話題に上ったが、その方の「主な働き方」について回答するように指示をすれば、「学生」が主と考える方は「学生」を選んでもらえるし、「学生」だが「アルバイト」や「ユーチューバー」を現在の「主な働き方」と考える方はそちらを選んで頂けるのではないか。

○「主たる働き方」と入れたらいいかもしれない。

◇その辺りを追記した上で、あとはご自身に選択していただき、選択肢の番号によって回答の進み先を選んでいただくようにしたい。冒頭のところは、「現在のあなたのご職業は何ですか」と修正したい。

○問 22「性別による差別」についての設問だが、選択肢からすると、ジェンダーやSOGI による差別があるか問うているのだと思うが、その前の用語の理解についての設問で既出であるので、「性別による」を削除して、「つぎのような差別がありますか」と修正してはどうか。

○問 18「業種の選択」だが、前回の議論で、「エッセンシャル・ワーカー」を業種として明確にしてはどうか、という記載を要点録で見たが、どのようにエッセンシャル・ワーカーをあぶりだすのか。

◇明確にするとしたら、選択肢「医療、福祉」や「運輸」の辺りなどでもう少し踏み込んで聞かないとピックアップは難しい。

○「業種」だけ聞いているのではダメで、その下の職種まで聞かないと掴めないと思うが、そこまで掘り下げられないのではないか。

◇問 18 の付問として、この後 1 つに、さらに「職種」の選択肢を作らないと分からない。

○この調査で「エッセンシャル・ワーカー」を明確に捉えたいというのは、どのような議論から出てきたか。

◇結果のクロス集計を行う際に、コロナ禍の困難性を問う設問の回答と、こちらの業種の結果を掛け合わせた時に、「エッセンシャル・ワーカー」の困難性は高かったのではないかという仮説があった。

○「業種」の下「職種」まで聞かないと掴めないと思う。それから問 19「あなたの働き方」についての設問であるが、非正規は「パートタイム」「アルバイト」「派遣・契約社員」で括る形となる。前回「ユーチューバー」や「ウーバーイーツ」の話も議論に上ったが、それらの方は「自営業、自由業」という個人事業主となるのか。

○「フリーランス」は、「企業・団体の役員・経営者」か「自営業、自由業」のどちらかとなるか。

○「介護ヘルパー」の方で、色々な介護事業所に登録しているような方は、どこの業種に入るのか。

○「内職・その他」となるか、若しくは「企業・団体の役員・経営者」か「自営業、自由業」のどちらかとなるか。

◇事務局としては「企業・団体の役員・経営者」か「自営業、自由業」のどちらかとなるかと考えている。

○労働研究としては、「非正規社員」と関連付けて捉える。「個人事業主」とはいえ、すれすれのところで雇われている場合もある。問 19「あなたの働き方」の中で「派遣・契約社員」の下に「フリーター」と加えてはどうか。

○「個人事業主」が選択肢に入っていると良い。

○「カメラマン」なども、フリーのカメラマンと言っても、実際は出版社と契約している場合もある。

◇事務局も明確な答えを持ち合わせていない状況である。

○個人事業主やフリーランスなど、最近注目されているカテゴリーをこういう調査の中で先進的に入れている自治体などがあるのか。

◇事務局で預らせていただきその辺りを踏まえた表現したいと思う。

○問 21「あなたの仕事上の悩み」の選択肢「仕事がつまらない」が「仕事に行くのが辛い」に変更されているが、仕事に行くのが辛いというのは、例えば鬱の症状で辛いというのと、「責任ある仕事をまかされていない」のような「つまらない」から辛いというのと意味合いが色々あると思うが。

◇気持ち的に辛いという項目が、選択肢になかったために追記したものである。

○それはそれでいいと思う。

○「○はいくつでも」という問いであるので、様々な意味合いで「辛い」という選択肢があっても良いのではないか。

○問 20「あなたが働いている理由」について、このような聞き方は、やはり「有償の経済活動をすること」イコール「働いていること」という印象を与えるのではないか。

○そこはあえてこだわらなくてもよいのではないか。

○問 19「あなたの働き方」や問 20「あなたが働いている理由」については、無職の方をはずすということか。

◇そうである。

○番号で誘導していく形式となっている。「有職の方」という表現がよくないのではないか。

◇「問 18（業種の選択）で、選択肢 1 から 16 のどれかに○をつけた方」という表現にしてはどうか。

○問 21「仕事上の悩み」についても、前文に「企業、団体に雇用されている方」とあるが表現が少々あいまいなので、同様に「問 18（業種の選択）で、選択肢 1 から 16 のどれかに○をつけた方」など明記したほうが良い。

◇そのように修正したい。

○確かに、「契約社員」は問 21「仕事上の悩み」を答えるのか不明瞭である。

◇どの人が問の対象となるか明確になる前文を追記したいと思う。

○問 19-1「パートタイム、アルバイト・派遣契約社員で働いている理由」だが、これらの対象者が「企業・団体に雇用されている方」のうち非正規雇用者ということなので、この次の問 20「働いている理由」が就業者の全体にお聞きしている間と思うが、問 21「仕事上の悩み」や問 22「職場上の性別による差別」の対象者が「企業・団体に雇用されている方」なので、問 19-1 の後に問 20 をとばして、問 21、問 22 を問 19 の付問として、そのまま続けて答える形にすると答えやすいのではないか。

○確かに、「経営者」や「自営業」は該当から外れる。

○この問 19-1「パートタイム、アルバイト・派遣契約社員で働いている理由」の次に、問 21「仕事上の悩み」を問 19-2 という形にすればよいのではないか。

○有職・無職という言い方をしないとなると、回答者がどこを回答すべきか分かりにくくなってしまうかもしれないので、問 20「あなたが働いている理由」は、例えば無職の方も含めて全員に聞いてしまうとか、聞けるところはできるだけ全員に聞いたほうが誘導としては間違いないかなと。

○確かに問 18「業種の選択」で「専業主婦・専業主夫」「学生」「リタイア・その他」を回答した人も、問 20「働いている理由」を回答しても構わないのではないか。

◇問 20「働いている理由」、問 21「仕事上の悩み」、問 22「職場上の差別」は対象を限らず全体に聞く質問として、あとはクロス集計で、必要であれば絞っていくという形としてはどうか。

○そうした場合に問 20「働いている理由」だが、リタイアの方とか、過去に働いていた理由という聞き方を含むかはどうか。

◇先ほどの議論の中でも、回答時の現在の状況について聞くことでよいのではないか。

○回答に使用しないのに、市側でカテゴリーを分けたくないがために、回答者に全部読ませるとするのはどうかと思う。関係ない項目まで読みこんでから、自分は非該当の設問と気づくのは、少しやり方としてはまずいと思う。「何番の人は何番へ」と問を導いていくやり方が良いとは思う。

○問 21「あなたの仕事上の悩み」をどうするかというのも、企業に雇用されている方に絞るのかということが課題である。

○技術的な質問だが、ネットで二次元コードを読み取り回答する場合、回答したらスキップできるようにしてはどうか。

◇市で作成するが、そのような機能がある。

◇事務局預かりさせていただき、回答者に無駄な手間をかけさせないような設問を工夫させていただきたいと思う。

○議論の中で思ったのが、問 19「あなたの働き方」の中で選択肢「自営業、自由業」とあるが、妻が夫を手伝っている場合、つまり家族従業員が落ちているように思う。「自営業」で「家族従業員」を選ぶだろうか。

○言い方は変えるとしても、家族の事業を手伝っているという選択肢を 1 つ入れた方がいいように思う。

◇税法でいうところの専従者というものを、どこかに加えたいと思う。

◇今日いただいたご意見や追加、修正点などをどう組み込んでいくかはまたコンサルとも相談しながら確認し、事務局の方で対応させていただく。

（「性の多様性」について、事務局からの説明）

○用語解説は外したのか。

◇問 26「市の取り組みの認知度」の下にまとめている。

○用語のテストをしておいて、すぐそばに答えが書いてあるというのは違和感がある。

まだこの先に設問が残っているのに、ここで立ち止まってじっと読み込んでいると時間がかかってしまうので、1 番最後に置いて、読みたい方は読んでくださいという方が押し付けがましくなくて良いかと思った。

◇問 5「用語の認知度」も設問の直後に用語説明を入れているが、これも最後の方が良いか。

○これについてはやはり末尾に載せるのが適切かと思うがいかがか。

○ホームページのリンク貼るのはダメか。

○紙で回答する人もいる。

○正解があるテストをしているみたいだ、という意見もあった。

○問 5「用語の意味」は問のみだと、その意味を知らない方が殆どということにならないか。

○用語集が問のすぐそばにあると、「聞いたことはあるが詳しくは知らない」という回答が増えるように思う。

○やはり用語集は後半にまとめて掲載する方が良い。調査票の途中に掲載すると、回答者も混乱するかもしれない。

○用語については、私も少々気になっている。問 31 の選択肢「困難を抱える女性に対して、ワンストップで関係機関につなげるなどの支援を行う」の「ワンストップ」という表現は、市民に分かりにくいのではないか。

○ふるさと納税にも「ワンストップ制度」などあるので、理解できるのではないか。確定申告が楽になる制度である。

◇用語解説については巻末、文末に持ってくるということでいかがか。

- 該当の質問のすぐ後に載せておいた方が、質問の内容を忘れないうちにすぐに確認出来てよいのではないか。ウェブ回答の場合も、最後にずらずらと用語解説が出てくるのは、読みづらいと思うが。
- 紙は全員に届く。ウェブで回答する人にとっては巻末でも真ん中でも良いが、巻末にあったほうがわかりやすいのではないか。
- ウェブで回答する方については、巻末まで読まないと思う。
- 回答に要する時間の目安は？
- ◇一応 20 分と書かせていただいているが、この業務に関わっていない職員に試しに答えてもらったところ、15 分あれば余裕をもって終わるという結果となった。
- 回答時間については、少なめに記載したくなるが、やはり初見で読みながら考えると結構かかると思う。しかし、それでもご協力くださいというように標記した方が良いと思う。この解説文を読む時間については、回答に必要な時間には含まないと書く必要があるか。
- ◇改めて「用語解説」をどう扱うか。
- ネットで用語を検索する人もいるかもしれない。
- 人間の行動原理としては、自分宛てにきた郵便物については、何が送られてきたにせよ興味をもってパラパラめくると思う。ネットで回答をするとしても。
- 若い世代は、1 枚目を見てウェブと紙冊子が同じものと分かったら、もう紙冊子は読まないのではないか。
- 読書離れが進んでいるので、紙では読まないという人もいるかもしれない。
- 「パートナーシップ制度」については、両方に入っているので、どちらかは削除となるか。
- ◇前段の用語集の方は削除しようと思っている。
- ◇調査票は三つ折りにしするので、用語解説を最後のページにしておけば、折りたたみの最後のページとなり、紙をめくらなくても読むことができる。
- ウェブには、見にくくなるので、用語の説明は入れないでよいのではないか。
- ◇アンケートの冒頭に、「用語解説は 1 番最後のページにあります」という記載し、まとめて 1 番最後に入れる形にする。
- 困難を抱える女性に対してワンストップで関係機関に繋げるという、「ワンストップで」というのは、少々専門的で分かりにくいように思うが。書かれた内容はいいと思うのだが。

○「1つの窓口で」などの意味である。

◇高齢の市民からもこのような要望を頂くので、一般化している言葉であると思われる。

○フェイスシートの「あなたのことについて」の「一番下のお子さんの年代」だが、「一番下のお子さんの年代」は、「一人っ子」の場合はどう解釈するか。

○「1番下のお子さん」として答えることになるか。

◇頂いたご意見を踏まえて、事務局の方で最終的な確定をさせて頂き、確定後に皆さんに共有をさせて頂く。

(3) [報告]計画改定及び市民意識調査及び実態調査に伴う今後のスケジュールについて

◇年度内に市民意識調査を確定し、年明けから実施する。職員アンケートについては2月に入って行う予定で、こちらは非常勤も含めて実施するが、設問については事務局に一任をしていただければと考えている。審議会については、アンケート結果の集計が出てきた段階で、おそらく3月になるかと思うが、今年度の最終回ということで日程調整させていただこうと思う。

以上